

令和6年度第2回 野洲市都市経営審議会 結果報告

◇ 開催日時等

日時：令和7年3月25日（火）14：30～16：30

場所：野洲市役所本館2階庁議室

◇ 委員等

<出席委員（5名）>				50音順
1号委員（学識経験者）	中村 明博 委員	新川 達郎 委員	松田 有加 委員	
3号委員（市長が認める者）	川戸 良幸 委員	久保 朋子 委員	田中 英樹 委員	
<事務局>		政策調整部 布施部長、小池次長 企画調整課 玉川課長、四谷課長補佐、大根田		

1. 開会

- ・会長挨拶、市長挨拶

2. 議事案件 （◎会長、○委員、●事務局）

- ・行財政改推進プランの進捗状況報告について

- 人件費、物価高の原因は分析しているのか。
- 会計年度任用職員及び若手職員の給与改定が主な原因と考えている。
- 目標値が2年連続達成できていない状況。目標値の見直しも検討しては。
- 人件費の影響を受ける部分については検討が必要と考えるが、個々の事業の積み上げによって基金の目標額を達成しようという趣旨であったことも鑑みて検討する。
- 以前から指摘しているが、市全体として財政状況を良くするという共通認識を持って、より少ない労力で同等のサービスを提供するにはどうしたらよいかという視点で、業務の改善も含めて進めていく必要があると考える。
- 労力が減ったことは数字には表れないが、それがわかる指標を示した方がよいと考える。
- ◎時間外勤務に係る時間は把握しているか。
- 過去に調査を実施したことがある。
- ◎金額だけでなく、時間の観点から課、係、個人ごとに比較し、場合によってはDXの推進ができているところとそうでないところを比較してもよいかもしれない。
- ふるさと納税に財源を依存している感があるため、これをもって財政が健全化したと判断するのは危険だと感じる。
- 本市としてもふるさと納税の他に安定的な財源が必要であると考えており、企業誘致に力を入れているところである。
- 5ヶ年計画だが、達成ができていない指標がある中、残りの2ヶ年はどのようにして達成していこうと考えているか。
- 今年度は市長の交代に伴う方針の変更があったため、指標の達成に向けて年度途中で方策を講じることが難しかった。来年度以降は達成に向けてしっかりと方策を講じる。
- ◎企業版ふるさと納税の制度が延長されたが、活用はどのように考えているか。
- 寄附をいただけることはありがたいが、寄附を受けることのメリット、デメリットを考慮した上で、幅広く取り組んでいきたいと考えている。
- ◎全体的に改革に着手されている事業がほとんどだが、なかなか成果が上がらないものもある。こういった事業については、どういった目標を立て、何を重点的に取り組んでいくかということを精査し、来年度に活かしていただければと思う。既存の取組みについても、さらなる業務の合理化、効

率化を図られたい。ふるさと納税の話もあったが、他の自治体の好事例も参考にしながら、更なる活用を考えてみていただければと思う。

3. 報告事項

・事務事業評価の結果を踏まえた事業の見直し・予算への反映状況について

- 「文化・スポーツに関わる事業」に、民間の力を導入するのもよいのではないか。
- 「文化・スポーツに関わる事業」について、前回の審議会で指摘した補助団体の補助金の使途は適正であったか。
- 資料の中ではこの部分に関する回答が不十分ではあるが、ご指摘のとおり適正な運用管理が必要であると考えている。
- ◎当該事業に限らず、支出した費用に対して成果・効果が出ているかを確認した上で、無駄をなくするというのが事業評価の趣旨なので、担当各課に確認いただき来年度の進め方や改善の余地を検討いただければと思う。
- 「文化・スポーツに関わる事業」について、まずは前向きな姿勢が必要。A I等の技術を駆使して、より少ない労力で同等以上の結果が出せるような取組みを進めていくことが必要ではないか。
- ◎今回の予算の反映状況の中でも、マンパワー不足が散見される。合理化・効率化の観点での行政改革ができていないのは間違いないが、ない中でどうするかという観点が必要。各課の創意工夫を引き出すような行革サイドからの働きかけも必要ではないか。次年度の取組みとして全庁的にどういったことができるかを事務局で検討いただければと思う。
- 過去の実績の評価と今後の見通しはどうか。
- 基金の積立額の目標値を達成できたことは一定の成果と考えている。今後は改善できる余地も検討しつつ、目標値を維持していきたいと考えている。
- ◎本審議会からの意見を踏まえ、現状、市としてどのような対応を考えているか。
- スクラップアンドビルドで不要な事業を見直す中で新しい事業に取り組むということが十分に実行できていないところはあるが、各課に配分する予算を絞り切っているというのは事実。一方で、市民からの多種多様な要望が増えてきている側面もあり、こういったことを踏まえながら、適正な予算の確保に努めていきたいと考えている。
- 永原御殿を観光資源として活用し、収入確保に繋げるような展望は考えているか。
- 史跡の修復が主な目的であり、現時点ではその先の具体的な展望は考えられていない。
- 予算を削るばかりでなく、財源を確保するという観点も必要と考える。
- ◎来年度に入って改めて検討いただく項目も多数あった。予算に反映されないまでも、当審議会が出た意見を踏まえて、事業執行にあたり事務局から各課へ念押しをお願いする。各課で十分な予算取りができないという実態があるのは把握しているが、ない中で工夫するということは、公務に携わる皆様の仕事の仕方として求められているのではないかと考えている。

・令和7年度における審議事項について

- 学者の論文が掲載された「Jステージ」というウェブサイトがあり、様々な事例が掲載されているので参考としていただければと思う。
- ◎市としては旧さざなみホールの改修が最大の課題か。
- 野洲駅前、旧さざなみホールの整備を重点事業と捉えており、来年度からこれらの特定プロジェクトを担う部署が設置される。委員の皆さまからご意見を賜りたく、引き続きよろしく願います。
- ◎事務事業評価を5年間してきて、一定成果が出たということでやめるということだが、それに代えて何をするかということは改めて本審議会に報告いただければと思う。達成できていない項目もあるので、しっかりとフォローし来年度末には良い結果を報告いただければと思う。それが事務事業評価をやめても差し支えなかったという根拠にもなるので、よろしく願います。

4. 閉会